

やまがら

2021年
秋号
No.44

松山市議会議員
梶原ときよし

会派：ネットワーク市民の窓



やまがら(山雀)

毎年、冬には自宅に来てくれます。

一人ひとりが大切にされる 人間尊重社会を実現しよう。

- 松山市立の総合病院を設立し、コロナ等感染症対策を含め市民の命を守ろう！
- 官民癒着や税金の無駄遣いをやめさせ、高い市民負担を軽減させよう！
- 教育と子育て予算を増額し、医療・介護・福祉を充実させる市政に転換させよう。
- 電車・バス・フェリーのシルバーパスを実施して元気な高齢者が活躍する街にしよう。
- 伊方原発をやめて、自然エネルギーへの転換を促進しよう。(PPS電力の利用促進)
- 命、人権、環境、平和を大切に、子どもたちに安心未来を引き継ごう。



発行・梶原ときよし

本市にコロナ感染者を入れない 水際対策を徹底せよ !!



2番目は、何度も言いますが、国内では充分なPCR検査体制の構築が至急必要で、市民の体調変化はもとより気になる人や希望者にはいつでも誰でも検査が受けられる体制を常備する事で、陰性証明書をもって経済活動や自由な移動を可能にする事ができます。

3番目は、国や地方が責任をもって患者を受

今、国や自治体が全力でやるべきことは、先ずデルタに続くラムダを含め、あらゆるコロナを海外から入れないように、厳しい水際対策を行い、例外と抜け道の無い検査と隔離を徹底すること。

今、地球温暖化による台風や大雨などの大災害だけでなく、今まで経験したことがない事が日常茶飯事に起きている中、新型コロナウイルスを終息させるためには、市民が自らを守るための免疫や抗体を身に付けることも大切であるとは思いますが、市民の自助努力にのみ頼る政治を転換させない限りいつまでも無知・無策の神風頼み政治が続くことになるのではないのでしょうか。

残念ながら、これがオリンピックで誤魔化そうとした挙げ句に投了したスガ首相や、野志市長の二人が、いつも共通して唱える「自助・共助・そして最後に公助」という、市民自己責任政治の施政方針から来る現実で、コロナを終息させることができない一番の原因ではないでしょうか。

なんで百年に1回の危機に政治家が危機感を持たないのか。話になりません！

今、国や自治体が全力でやるべきことは、先ずデルタに続くラムダを含め、あらゆるコロナを海外から入れないように、厳しい水際対策を行い、例外と抜け道の無い検査と隔離を徹底すること。

2021年9月議会
一般質問前文
梶原 ときよし
2021.9.16

ネットワーク市民の窓の梶原時義でございます。新型コロナウイルスの陽性者が、8月に愛媛県でもとうとう100人の大台に乗ってしまいました。

東京や大阪では、コロナに罹っても医療を受けることができず、自宅待機させられるという現実！

今、地球温暖化による台風や大雨などの大災害だけでなく、今まで経験したことがない事が日常茶飯事に起きている中、新型コロナウイルスを終息させるためには、市民が自らを守るための免疫や抗体を身に付けることも大切であるとは思いますが、市民の自助努力にのみ頼る政治を転換させない限りいつまでも無知・無策の神風頼み政治が続くことになるのではないのでしょうか。

残念ながら、これがオリンピックで誤魔化そうとした挙げ句に投了したスガ首相や、野志市長の二人が、いつも共通して唱える「自助・共助・そして最後に公助」という、市民自己責任政治の施政方針から来る現実で、コロナを終息させることができない一番の原因ではないでしょうか。

なんで百年に1回の危機に政治家が危機感を持たないのか。話になりません！

今、国や自治体が全力でやるべきことは、先ずデルタに続くラムダを含め、あらゆるコロナを海外から入れないように、厳しい水際対策を行い、例外と抜け道の無い検査と隔離を徹底すること。

本市においては、私が昨年から議会のコロナ対策で要求し続けているPCR検査体制の整備として、松山空港やJR松山駅での水際対策検査、また岡山や香川方面から松山に到着する列車内での検査体制の整備、更には市外や県外から来た観光客を含め、全員検査を宿泊ホテルで行うことなど、松山に感染者を入れない対策を徹底する必要があるのではないのでしょうか。

また、コロナ感染者への医療提供ができず感染者を自宅待機させるという政策は、感染拡大の火に油をそそぐだけでなく、全くあり得ない場当たり政策に他ならず、「施設がないから命の危険があっても仕方がない」などと言うことを、正当化させてはなりません。

昨秋に、コロナを軽く見て利権のために二度目の大阪都抗争に明け暮れた挙げ句に、感染爆発をさせたどうしようもない大阪維新の会や、デルタを知らずオリンピック利権を強行し、9月新学期の子ども達まで命の危険にさせているだけでなく、国会も開かず未だに政権維持のことにしか考えず、総裁選挙に没頭する自公の自己中な国会議員達、どう考えても現政権では、多くの市民の犠牲の上でしか、コロナを終息させることができないのは明らかです。

市民の皆さん、お願いですから、もういい加減私利私利しか考えていない自公と維新の政治をやめさせてください。

消費税の廃止とコロナから市民の命を守る気概のある野党を育ててください。

投票に行ってください。

お願いばかりで少し前文が長くなりましたが質問に入ります。

コロナ陽性者の「自宅療養」をやめ 臨時病院の病床を増し、入院治療を求める意見書に何と自民・公明らが反対!! 何を考えているのでしょうか？!

ネットワーク市民の窓の梶原時義でございます。

コロナ陽性者の「自宅療養」をやめ、国の公的責任による臨時病院の病床を増して入院治療を求める意見書について提出議員を代表して提案説明を行います。

今、日本の多くの国民は新型コロナウイルス感染症に怯え、「入院制限と自宅療養」に強い不安を抱えています。東京オリンピックを挟んだ第5波における急激な感染症の拡大により、この8月東京都における新型コロナウイルス感染者の入院率は8.7%まで下がらず、10人に1人しかともに医療を受けられないという惨事を招きました。東京や大阪をはじめとする日本の医療は実質的な医療崩壊を経験したことになります。

その典型は、入院できている陽性者の割合が極めて低く、「自宅療養」と称する「自宅待機」の激増にあることです。「自宅療養」では、医療対応どころか食生活などの対応も出来ず、患者の「放置一見放し」につながり、これでは患者の命を守れないだけではない。

今、日本の多くの国民は新型コロナウイルス感染症に怯え、「入院制限と自宅療養」に強い不安を抱えています。東京オリンピックを挟んだ第5波における急激な感染症の拡大により、この8月東京都における新型コロナウイルス感染者の入院率は8.7%まで下がらず、10人に1人しかともに医療を受けられないという惨事を招きました。東京や大阪をはじめとする日本の医療は実質的な医療崩壊を経験したことになります。

その典型は、入院できている陽性者の割合が極めて低く、「自宅療養」と称する「自宅待機」の激増にあることです。「自宅療養」では、医療対応どころか食生活などの対応も出来ず、患者の「放置一見放し」につながり、これでは患者の命を守れないだけではない。

く、感染症の「放置」となり、家庭内感染と地域感染をも拡げます。

「施設がないから、命の危険があっても仕方がない」などという不正当な正当化はなりません。

「自宅療養」は極めて危険です。すでに多くの命が失われています。とりわけ、この夏2000人もが「自宅療養」で亡くなっています。

私たち意見書提出議員は、いかなる場合にも国民の命を守り、安心できる医療の確立が必要と考えます。

このままでは、ますます社会全体に感染を拡げ、入院治療ができないまま亡くなる人々を増加させるだけです。軽症者においても急激な悪化に対応する入院治療が必要不可欠です。

第5波が落ち着きを見ている今、この時にこそ政府は、生存権を守る公的責任をはたすために自治体と協力して、全ての患者を受け入れることができる治療の体制と新たな緊急病床の確保を急がなければなりません。

新型コロナウイルス感染者の「自宅療養」をやめ、早期に公共施設の大ホールやイベント会場を使用してでも臨時病院を設置し、病床の増加をはかるべきです。

このことは、すでにいくつかの自治体が具体化しはじめていますし、8月18日の日本医師会の会長会見でも提言されています。

また、医療従事者の確保も必要不可欠であるため、関係団体との協力を求め、安全な環境と良好な待遇条件で人材をしっかりと確保していただきたい。

さらには、社会的検査を徹底し、コロナ感染症の軽症患者・無症状患者の入院を受け入れていただきたい。

以上、新型コロナウイルス感染症から国民・市民の命を守るための緊急かつ最重要な意見書です。

まさかとは思いますが、本市議会議員全

松山市定例市議会(年4回)に 12年間、46議会連続登壇を 続け、市政に喝を入れています。

※2021年9月現在 (連続登壇記録更新中)

2010年の松山市議会議員当選以来、全定例議会で質問あるいは討論を行ない、一問一答方式の導入をさせるなど、これまでのセシモニ化した議会に風穴を開け松山市政の監視を続けています。

「一問一答方式」の導入で緊張感のある議会に

パネルを使って分かりやすい質問

答弁する市長

会一致での採択をお願いして、簡単ですが提案説明とさせていただきます。

尚、市民の皆様には、厳しい議員監視をお願い致します。

※何と自民・公明らの議員の反対で、否決されました。何も考えていない議員は辞めてもらいたいです。

HPでは梶原の活動予定や 全定例議会での質問登壇が 動画でご覧いただけます。

市政他、何でも相談をお受けしています。
ご連絡ください。

[ホーム](#) [梶原ときよし 公式ホームページ](#) [検索](#)

梶原ときよし事務所

〒790-0813 松山市萱町2丁目1-2
TEL 089-947-2258
FAX 089-947-2259

携帯 080-5669-8586
E-mail sizenha-812@lib.e-catv.ne.jp

●午後1時～午後5時まで (月～金)
●土・日・祝日はお休みです。

事務所

JR松山駅より徒歩8分、西堀端電停より徒歩4分

お近くにお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。

議会質問

梶原ときよし

9月議会
一般質問より抜粋

2021年
9月16日

【新型コロナ対策】

市民への自粛のお願いに頼るのではなく
行政が水際対策を徹底するべきではないか!!

市民の自助努力に頼るだけの新型コロナウイルス感染症対策だけではなく、行政が積極的に本市に感染者を寄せないよう水際対策を講じるべきではないのか。

梶原議員

9月7日現在、愛媛県内の感染者数4,856人に対し、2,776人と県内で突出して感染者を出している本市の状況を見ると、市長は何か感染爆発の原因だと考えているのか。また、市長は、都会や県外から本市に感染者を入れないように、何か対策をしてきたのか。本市の水際対策は十分なのか。

保健・福祉部長の答弁

本市の、7月以降の感染事例では、感染経路が県外と推定される事例が第4波以前の約2倍以上に増加しており、全国的に、デルタ株の確信が増加傾向にある中、県外からの持ち込みや持ち帰りが、感染再拡大の主たる要因であると考えています。

帰りを防止するため、7月末以降、市民や事業者などに、感染拡大地域との不要不急の出張や往來の自粛をお願いしました。

県外からの持ち込みや持ち帰りが、感染再拡大の主因としながらも水際対策を取らず、自粛のお願いだけでは、コロナは終息しないのでは!!

梶原議員

私が昨年の議会から何度も主張している、山空港やJR松山駅での水際対策としてのPCR検査、また、岡山や香川から松山にJR列車内での検査体制の整備、さらには、客を含め全員の検査を宿泊ホテルで行うことなど、本市に感染者を入れない対策を徹底して行う必要があると思うがどうか。この1年半、水際対策を取らない結果が数字で表れていると思うがどうか。市長は水際対策をやる気はあるのか。

サーモグラフィーによる検温実施中
ウィルス感染拡大防止の為に協力をお願いします

例：サーモグラフィーの導入など

保健・福祉部長の答弁

本市としては、市内の感染状況に対しては感染の早期発見、囲い込み、封じ込め、感染状況に応じた臨機応変な検査が、有効な対策であると考えており、感染状況に応じた、効果的な検査や対策に取り組んでいきたいと思っています。

これまでの場当たりの検査体制が、今日のコロナ危機を招いているのは明らかであり、十分な検査体制の整備が必要である。

市長は新型コロナウイルス感染者に対する医療に責任を持つべきではないか。

梶原議員

自宅療養という名の自宅待機が増え続けているが、「急に病気になるたら救急車で運んでもらって病院で治療を受けられる」という最低限当たり前の医療保障ができないとしたら、リーダーとして失格である。即刻十分な病床と臨時病床やホテル療養施設を確保して自宅待機者をなくす手立てを具体的に示せ。

保健・福祉部長の答弁

本市では、無症状や発熱のみの症状など医師が軽症と判断した方のみが、自宅で療養されて

自分の農地を分筆したら分筆前の評価額343万円が、分筆後同じ土地が1,200万円課税に上げられた。あなたなら許せますか。

自分の農地を二つに分筆しただけで46年間、何の環境変化もない市街化区域内の農地に対し前年比3.5倍の350%課税をして、農家を苦しめているが市長は正気なのか。撤回するべきではないのか。

梶原議員

市内で真面目に農家を営んでいる市民から「自分の土地を二つに分筆しただけに固定資産税が3.5倍になったことに納得がいかない」との相談があったが、これをどう説明するのか。350%課税された農地の周辺は過去46年間何の環境変化もないと聞くが事実か。

また、農地を分筆しただけなのに、その農地の価値が3.5倍になったのか。それとも価値は上がっていないのか。

土地固定資産税
前年比3.5倍
(350%UP)



います。

9月15日現在の自宅療養者は47人です。また、自宅待機している方は4人で、症状や家族の状況、本人の意向などを勘案し、県が療養先を調整しています。

入院が必要な方は、陽性確認の当日か、遅くとも翌日には入院ができており、都市部で報じられているように、入院すべき方が自宅に留め置かれる状況は、発生していないと伺っています。

東京や大阪のように、10人に1人しか入院できない状況を松山市で起こさないために、今のうちに対応が必要ではないか。



梶原ときよし(ネットワーク市民の窓)

今議会是一般質問と「コロナ陽性者の入院治療を求める意見書」提案で2度登壇しました。

理財部長の答弁

分筆後の農地の価値についてですが、一般的に、土地の開口、奥行、形状や接する路線の状況などが変われば、固定資産税の評価額が上がる可能性があります。

梶原議員(再質問)

3.5倍に価値が上がったのか。それとも上がっていないのかを聞いている。

理財部長の答弁

課税正面路線は、市が恣意的に定めるものではなく、分筆後の土地が接する路線の状況から判定します。

※分筆前後も、接する路線は変っていない。

「価値が上がったのか、上がっていないのか。」一般論で聞いているのではなく、地番まで指定して質問しているのに全く答えない。担当部長の言いなりでは、市長は政治をする資格がないのでは!!

梶原議員

私が2014年から15年、16年、18年と5年間で4回にわたり、本市の施設で使う電力を四国電力と新電力会社、いわゆるPPS特定規模電気事業者との競争入札にするべきではないかと質問してきたが、試験的に

中学校に導入してから2017年に小学校や本庁舎を含む市長部局への導入も一部で始まった。「全施設への競争入札導入を急ぐように」と私の質問に対し、「学校のように休日



や夜間に電力を使わない時間帯がある施設では有効であるが、24時間稼働する施設では期待できない」など入札を拒み続けてきた。しかし結果は2021年の契約ベースで教育委員会

庁内雑音のヒトコマ



分筆しただけで同じ土地なのに、350%課税とかあり得ませんよね?! 酷すぎませんか?!



たぶん担当者の単純ミスだけど、それを認めると、あの幹部の出世にひびくからね!でもここまでやったら、もう犯罪行為と同じだね。



傍観してはダメです! 46年間、何の環境変化もないのに、土地の評価額がいきなり3.5倍に上がることは有りえません。即刻、元に戻すべき事件です!!

梶原議員